

船舶事故調査報告書

平成23年3月10日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成22年4月22日 06時40分ごろ
発生場所	三重県熊野市猪ノ鼻灯台から真方位060° 1.2海里付近 (概位 北緯33° 53.7′ 東経136° 09.1′)
事故調査の経過	平成22年4月22日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 ^{ほうきゅう} 宝久丸、3.8トン ME3-59806（漁船登録番号）、個人所有 10.90m (Lr) × 2.54m × 0.99m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数25、昭和56年7月28日
乗組員等に関する情報	船長 男性 41歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成16年7月12日 免許証交付日 平成20年9月1日 (平成26年7月11日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	全損（廃船処分）
事故の経過	<p>本船は、船長ほか2人が乗り組み、三重県熊野市木本港の定置網漁場で操業したのち、積荷により乾舷が減少した状態で、木本港東方沖を航行中、東方から高波が打ち寄せる状況となったが、そのまま東進を続けた。</p> <p>本船は、平成22年4月22日06時35分ごろ熊野市カイトロー鼻と同市鈴置島との間を約6ノットの速力で北東進中、東方からの高波を受け、大量の海水が甲板に打ち込み、船体が右舷側に傾き、右舷側の排水口が海面下に没して甲板に打ち上げられた海水が排出できなくなった。</p> <p>船長は、転覆の危険を感じ、携帯電話で僚船に救助を依頼した。</p> <p>本船は、更に傾斜が増し、海水が右舷ブルワークを越えて船内に流入し、06時40分ごろ、右舷側に転覆した。</p> <p>乗組員は、クーラーボックスやハッチカバーなどの浮体につかまって浮いていたところを僚船に救助された。</p> <p>本船は、僚船にえい航されて木本港に引き上げられたが、廃船処理された。</p>
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北東、風力 3 海象：波向 東、波高 約2m

<p>その他の事項</p>	<p>乗組員は、救命胴衣を着用していなかった。</p> <p>本事故当時の本船は、ほぼ満載状態の約2.2tの漁獲物を積載しており、両舷に各3個設置されていた直径約5cmの排水口の下端は、海面上約3cmの高さであった。</p> <p>船長の所有していた携帯電話は、防水型であった。</p> <p>船長は、時化しているときには、漁獲物を木本港内の漁港から自家用トラックで水揚げ港である熊野市遊木漁港へ運んでいた。</p> <p>船長は、同じような気象条件のときに遊木漁港に航行した経験があったが、本事故当時のようなほぼ満載状態での航行経験はなかった。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、東方から波高約2mの波浪が寄せる状況下、カイトロー鼻沖を北東進中、右舷側から大量の海水が甲板に打ち込み、右側に傾いて転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、満載状態の漁獲物により乾舷が減少していたので、大量の海水が甲板に打ち込んで右側に傾いた際、右舷側の排水口が海面下に没し、甲板に打ち込んだ海水を排出できなくなり、更に傾斜が増し、海水が右舷ブルワークを越えて船内に流入して転覆したものと考えられる。</p> <p>船長が、漁獲物を木本港内の漁港から自家用トラックで水揚げ港である遊木漁港へ運ぶ方法に切り替えていれば、本事故発生を回避できた可能性があると考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、東方から波高約2mの波浪が寄せる状況下、本船が、満載状態の漁獲物の重量により乾舷が減少した状態でカイトロー鼻沖を北東進中、大量の海水が甲板に打ち込んで船体が右側に傾いた際、右舷側の排水口が海面下に没して甲板に打ち込んだ海水を排出できなくなったため、更に傾斜が増し、海水が右舷ブルワークを越えて船内に流入して転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>	